

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 1月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900233		
法人名	一般社団法人NSライフ		
事業所名	グループホームかわち「ぬくもりの家」		
所在地	広島県三次市下川立町488-2 (電話) 0824-65-4077		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3491900233-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年12月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者お一人おひとりの以前の生活を尊重し、その人らしさを大切に心落ち着いた暮らしができるよう、「愛につつまれて、心から和める、ぬくもりのある施設を目指します」の理念のもと、「寄り添うケア」に努めています。家族・地域との絆が途絶えないよう交流を大切にし、生きがいのもてる、豊かな共同生活ができる、グループホームを目指すとともに、小中学校に隣接した場所にある利点を活かし、子供たちとの交流を大切にし、地域の一員として愛される施設となるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地元の要望で建てられたホームであり、市の協力体制や保育所、小学校、中学校、近隣住民とは顔なじみの関係を築いている。利用者個々の力に着目し、日常の生活で個々の役割として、炊事、しめ縄作り、野菜の収穫などがある。利用者の想いを大事にし、利用者のペースで過ごせるように職員は配慮している。個別ケアについて、個々の想いや要望を受け止め、例えば、自宅に帰って畑作りをするなど叶える取り組みをしている。働きやすい職場づくりに力を入れ、それにより勤続年数の長い方が多数おり、馴染みの職員が関わることにより利用者や家族との信頼関係の構築を図っている。社会貢献活動並びに地域住民の方へ、認知症サポーター養成講座を始め、今年度は、市からの依頼で事業所スペースを開放し、住民主体の『認知症カフェ』を協力し運営するなど地域ニーズに応えるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に添い、施設全体の年間目標、入居者と共に生活する上でのホーム独自で年間目標を掲げ、理念の実施につなげている。ホーム全体で身近な事例や研修会を定期的に行い、グループワークを行うことにより、管理者と職員で共有し実践していくように取り組んでいる。	年度初めに理事長から、事業所が目指すべき方針の話がある。地域状況や利用者状況などを踏まえ毎年度目標を掲げ実践している。毎日の朝礼時に唱和し、毎月の全体ミーティングで振り返っている。年度末に評価検証を行い、次年度に繋げる取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事が開催される際は、職員が役員として関わり、事業所と地域のパイプ役となり、利用者が地域との繋がりを続けられるよう交流している。又、定期的に地域のボランティアの方の活動があり、地元の保育所、小学生、中学生との交流も多く行っている。又、事業所として、地域行事の企画運営側として参加する事が多くなっている。	職場体験や実習生の受け入れなど積極的に行い、将来介護の仕事に興味をもってもらえるよう努め、近隣学校とは良いお付き合いができるように継続している。地域行事、ふるさと祭りで、利用者の作品を出展している。地域行事の企画運営側として参加することが多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も地域からの要請を受け、地区サロン等で認知症予防についての講義を行うなど、認知症の理解を促している。地元の小学生には、認知症サポーターとしてボランティア学習の受け入れを行っている。また、小学校や中学校に出向き、高齢者疑似体験を通して高齢者についての授業も行っている。地域ケア会議のメンバーにも加わり地域の課題に取り組んでいる。事業所には認知症ケア専門士や認知症アドバイザーを配置することで地域の相談窓口となるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能施設との合同で、2ヶ月に1回定期的に開催している。新型コロナウイルスの影響で今年度は2回の開催となっているが、活動報告などの書類を運営推進会議構成メンバーに送付し、意見や助言は後日、電話にていただくことでサービスの向上に活かしている。	市担当者、警察、自治会、家族代表、民生委員などが参加している。新型コロナウイルス感染状況に応じて、対面会議、書面報告と柔軟に開催している。参加メンバーと避難訓練を行い、有事のことを踏まえ、車いすの方でもスムーズに避難ができるように避難経路を整備した経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター職員の出席があり、意見や情報交換を行っている。また、疑問等は、電話での相談のやり取りの連携を行っている。市の介護予防事業の委託を受け定期巡回高齢者トレーニング教室実施。災害時の福祉避難所として、災害時には協力体制をとっている。	市担当者や地域包括支援センター職員とは協力関係を築いている。事業所のスペースを開放し、市の介護予防事業『定期巡回高齢者トレーニング教室』を開催している。今年度は市からの依頼で、住民主体の『認知症カフェ』を運営し、地域ニーズに応えるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、施設内で年2回の研修を行うことで拘束のないケアの重要性を理解し取り組んでいる。また、スピーチロックなどアンケートを実施し、改善点について毎月振り返りを行い意識向上を図っている。帰宅願望のある入居者の方にも、制止の言葉は遣わない事を周知し、散歩等気分転換して頂くように取り組んでいる。	運営推進会議で報告、年2回研修の実施をしている。家族の了解を得て、転倒リスク軽減のため、足元センサーマットを設置している。毎月の運営会議での話し合いや2カ月毎の事業所独自のアンケートを実施し、言葉掛けや不適切なケアに繋がらないように意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し意識を促し、勉強会をすることで職員間での連携を図っている。職員の個人面談・チェックシート等でストレスケアをすることで虐待を招かないよう努めている。虐待防止の外部研修などは積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設長・管理者に於いては、研修等に参加する機会を設け、自施設で職員への研修会を実施し周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約や解約、改定は入居者や家族より疑問や不安なことがないか確認しながら十分な説明を行い同意を得ている。入居後に改定となったものについても文書や電話にて同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の対話の中で不満や要望等をくみ取りながら、管理者会議や運営会議、ミーティング等で話し合いを行い、入居者の不満の解消や要望に応えられるよう支援している。また、普段から家族とのコミュニケーションを深め面会時の会話の中から、要望や意見を聞くようにしている。	新型コロナウイルス感染状況に応じて、窓越し面会、短時間の対面面会など柔軟に対応をしている。利用者や家族等の意見や要望などは、申し送り時やミーティングなどで情報共有し、早めに対応している。例えば、『散髪をしたい』意向から家族対応で自宅に帰り対応された方もいる。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットでのミーティングや個人面談での意見や提案等を出しやすい環境を作っている。また、職員が主体となり各委員会(感染・広報・美化・研修・防災)の委員長や委員メンバーとなり委員会を運営している。各ユニットの意見や提案は、毎月の運営会議(リーダー以上の会議)に持ち寄り、反映に努めている。	管理者と年3回の定期面談を実施している。ここで働いて良かったと思えるように、働きやすい職場づくりに力を入れており、前向きに意見を受け止め、運営に活かしていく工夫がある。利用者に還元できる、アロマやマッサージ師など資格取得支援やアイデア賞などを取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、自己評価も定期的に行っている。それに基づいて、面談することにより職員一人ひとりの思いを聞いたり、意識の向上を図るとともに、より良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、自主研修等を積極的に受ける機会を設けている。研修委員会を中心に年間計画を立て実施している。資格取得についても補助制度などを設け取得しやすい環境にしている。コロナ禍であるが、オンライン研修を積極的に取り入れ研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	三次地域密着型サービス事業所連絡会を立ち上げたことにより、市内のグループホーム9事業所との意見交換を行うことができ、サービスの質の向上に繋がるネットワークづくりを行っている。コロナ禍についてもオンラインにて定期的開催している。その他、管理者や職員は、外部研修を通して同業者や他専門職の方との意見交換や共有をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用などを設けることでスムーズに入居できるようにすすめている。家族やケアマネージャーからも情報を提供してもらい、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴の聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスが本人にとって有効であると考えられる場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、利用者の様子がわかるように手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、荷物が届いた場合には希望があれば本人から家族に電話をかけていただけるように支援することで、絆が途切れない関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。自宅が気になる方は定期的に自宅へ帰り、季節の物を収穫している。	職員は利用者の思い出の場所を大切に考え、馴染みの美容院など行くこともあり、家族の協力を得て、個人外出をしている。電話や年賀状のやり取り、本が好きな方には本が届いたりしている。柿の収穫の時は毎日収穫に行くなど業務を柔軟に変更することで対応し支援している。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話が弾むような席の配置を心がけている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等の家事を職員と一緒にしている。毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了する場合であっても入居者と家族がその後の生活で困ることの無いように、いつでも必要な介護サービス等の相談を受けれる体制をとっている。移り住む所の関係者にも必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用などを設けることでスムーズに入居できるようにすすめている。家族やケアマネージャーからも情報を提供してもらい、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。	担当職員からの情報や本人の日常会話から得られた思いや意向は、個人記録や連絡ノートに記録し、職員間で共有している。『メロンパンが好き』などあれば、週1回のパンの移動販売を活用したり、近くのコンビニなどで購入している。思いがあれば即対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴の聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるに準備をできるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを基に、各担当職員が1ヵ月ごとにミーティングで報告し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、必要に応じてカンファレンスを行い、都度、課題やケアのあり方について話し合いをしている。</p>	<p>担当職員が日々の状況を把握し、独自のケアプランをもとに、ケアマネジャーと計画作成者が共同で作成している。日々の状態変化に応じて、ショートミーティングを行い、連絡ノートで共有している。本人の生活、習慣が継続できる個別性を重視したプラン作成をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子やケアの実践は個別のケア記録に記入している。入居者との関わりの中で気づいたことをノートに記入し、職員間で情報共有して、統一したケアに努めている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活が施設内にとどまることがないように、本人の生活歴等をもとに、今までの交流が継続できるよう支援している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の3つのお寺から定期的に法話会を開催している。ボランティアについては、個人で登録していただく「ぬくもりヘルプスタッフ」を発足し、馴染みの関係になるボランティア活動に繋げている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎月主治医から「医学的情報と今後の方針」を、主治医には利用者の「今月のご様子」を提供しお互いに情報共有している。また、看護師との連絡ファイルを作成し、心配事や利用者の希望などが看護師を通じて医師にも相談できる体制を作っている</p>	<p>平日、毎日の往診体制がある事もあり、殆どがホームの協力医を選択している。主治医に毎月の状況用紙を手渡し、主治医から『今後の方針、注意事項など』の書面を得て、職員間で共有を図り対応している。週1回の訪問看護、必要時は歯科、皮膚科、外科など適切な医療が受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	心身状況の変化などで介護上不安に感じることがあれば訪問看護師に報告、相談しアドバイスを貰いながら処置や受診に繋がっている。また、連絡ノートやLINEを活用し、介護職員との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院など余儀なくされた場合も病状や療養経過を家族から報告を受けたり、医療連携室のソーシャルワーカーと連携して今後についても一緒に考え、相談できる関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	開設後、現在までホームでの看取りを数例している。重度化した場合は、本人、家族や医師と相談しながら、希望があれば看取りを行う方針にある。提携医院が近くにあり、医師と24時間連絡が取れ、緊急時にも的確に対応して頂けるよう体制が整っている。	看取りの経験もあり、希望があれば看取りをする方針である。重度化した場合『看取りに関する指針』に準じて、その都度、主治医や家族とカンファレンスを行い方針を決めている。遠方の家族とはオンラインを活用し、家族からの希望があればホームでの寝泊まりも可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の救急蘇生法やAEDの使用方法を外部講師（消防署）からの研修を職員が受けている。施設で起こりうる、急変に必要な救急処置の研修を看護師により定期的実施している。都度看護師等の指導を受けたり勉強会などで今後身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災想定訓練を行っている。地域の消防団と連携して火災想定訓練を計画している。近隣との信頼関係はあり協力が得られる状況にある。自治会主催の合同避難訓練に参加し災害時の連携体制を築いている。今年度も運営推進会議の方々にも訓練を見学してもらい意見交換の場を考えている。3月11日には停電や断水などの災害を想定し訓練を行っている。	立地条件から市からの依頼で災害時の福祉避難所の指定を受け、簡易ベッド、ソファなど準備をしている。運営推進会議で災害対策について話し合い、メンバーとの訓練から地域との連携を図っている。毎年、救急蘇生法の訓練、年2回の火災を想定した訓練をしている。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を実施し、人格や尊厳を尊重した言葉かけや対応について理解を深めている。制止の言葉は遣わないことを周知し、入居者の思いに添った支援に努めている。また常日頃から、プライバシーには配慮しながらケアを行っている。言葉遣いや対応に関して、職員同士でも日頃から、お互いに評価を行っている。	言葉遣いは日常のこともあり、特に気をつけて対応をしている。基本、上から目線の声掛けにならないように自分本位ではなく、利用者本位で物事を常に考えた声掛けに徹している。年1回の研修、2カ月毎の言葉遣いのアンケートを実施し、職員間で評価している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から、本人の希望や思いを表せるよう努めている。おやつ時間に自分の食べたいものや飲みたい物を選んで頂いたり、入浴時には自分で服を選んで頂くように声掛けし、自己決定ができるように働きかけている。又、自宅の墓参り等の外出支援も本人の思いを大切に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意思を必ず確認し、希望に添った支援を心掛けている。本人のやりたい事や思いはケアプランにも反映して、その人らしい日々の暮らしになるように支援している。日常業務についても入居者の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、頭髪などの身だしなみを整えていただく事で、おしゃれへの意識を持ち続けられるよう援助している。行事・外出等、その場に合った服装やおしゃれのできる声掛けや複数の服の中から選べるよう準備することやお化粧品等の支援を行っている。また、行きつけの美容院に行くなどの支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かし、それぞれの役割を持ち、買い物・下ごしらえ・調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等分担し、食事作りに参加している。献立作りも日々の会話の中から要望を聞き献立に反映している。季節の食べ物を提供できるよう心がけている。秋には新米を頂き、かま炊きを行った。コロナ禍で買い物に出かける機会が少なくなったが、生協を利用し、利用者に見ながら食べたい物を選んで頂いたり工夫している。	うどん作り、コロッケ作り、恵方巻など、なるべく旬の食材を使った3食手作りの食事を提供している。利用者個々に役割があり、調理、盛り付け、片付けがあり、自分で出来る楽しみを増やす取り組みをしている。新型コロナウイルス感染状況に応じて、買い物や外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日の食事を記録に残し、その入居者 の方に合った食事形態で提供している。 又、水分量の少ない利用者の方には、 個々の好みの飲み物を提供したりゼリー にして提供することでしっかりと摂取し て頂いている。夜間も、個々にお茶など を準備して居室に置き、水分補給を促し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず声掛けをしている。義歯等磨 くことが難しい入居者には介助を行い清潔 を保持している。義歯と口腔ケアセットの 洗浄・消毒は毎日行っている。歯や義歯の 不具合がある場合には、歯科受診や往診を して治療や相談を行ない、清潔な口腔状態 を維持できるようにしている。又、歯科衛 生士の資格を有する職員がおり、相談をし ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンをケア記録や排泄記 録表に記載し、入居後も自立支援に向け た支援を行っている。定期的な誘導や排 泄の意思を察知し、誘導できるように支 援している。	個々の排泄パターンを把握し、定期的な 声掛け、誘導にて排泄支援をしている。 なるべくトイレを待たないようにトイレ は4箇所設置し、車いす使用が可能な広 さになっている。排泄委員会を中心に本 人の状況に応じて、トイレ誘導や紙おむ つなど検討、工夫しながら対応をしてい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、1人1人の排便チェックを行い、便 秘の入居者の方には、ヨーグルトや食物 繊維の補助食品などを提供し、適度な運 動を取り入れながら、できるだけ下剤に 頼らないように取り組んでいる。又水分 が入りにくい方に対して、紅茶ゼリー等 を作り水分摂取を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	好みに合わせた入浴剤や温度設定をし、ゆったり のんびりとした入浴時間を提供している。入浴拒 否に対しては日を改めて入浴の声掛けを行って いる。入浴時間の希望があれば出来る限り応じられ るよう取り組んでいる。同性介助者を希望される 方に対応している。毎月26日を風呂の日として 入浴後にはジュースやアイスクリームを提供など いつもとは違う雰囲気を楽しんで頂いている。	基本は週2～3回であるが、希望があれば 夕食前や毎日の入浴も可能である。ユ ニット毎でリフト浴、両側から介助がし やすい個浴がある。入浴検討委員会のア イデアから毎月26日を風呂の日として、 入浴後はジュースやアイスクリームを提 供している。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	いつでも自由に落ち着く場所で休息を取って頂いている。夜間の睡眠状態を日中に申し送り、個々に合わせた休息を取って頂いている。安眠できるよう照明や寝具などの要望にも対応している。巡視時には室温の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方に基づいて、居宅療養管理指導の薬剤師が調整した薬を、介護職員が説明を受け服薬支援をしている。体調等に変化があった際には、看護師やかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や本人の要望、興味のある事などを把握した上で役割を持った生活を過ごして頂けるよう支援している。食事の準備や盛り付け、配膳など積極的にされ、買い物等の外出支援やドライブ、散歩など気分転換にも努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出機会も減っているが、感染者数を確認しながら季節間を感じて頂けるようドライブや外食に出掛けたり、ドライブスルーを利用し普段食べれないものを食べて頂いたりした。希望で歯科等の病院受診も家族と協力しながら外出できるよう支援している。	新型コロナウイルス感染状況に応じて、ドライブ、自宅に帰る、地元特産物のりんごを買いに出掛けている。ドライブスルーを利用し、ソフトクリームを食べたり、公園でお弁当を食べることもある。気候が良ければ近くの散歩やホームテラスで体操やお茶を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理されておられる方と事業所で預かっている方がおられる。買い物希望がある時は、好きな物を自分で買える楽しみを味わえる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族や知人の方と、話したい場合など電話や手紙で連絡をいつでも取って頂けるよう支援している。年賀状のやり取りも毎年行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾り季節感を感じて頂いている。温度や湿度にも配慮し、冬場には定期的な換気を行い、感染予防にも努めている。ウイルス・殺菌除去に効果がある薬品を置くなどして、感染予防や不快な臭いのない空間づくりを行っている。</p>	<p>季節の花を飾っている。リビングから直接出入りできるテラスと、食堂からは田んぼが見え、田植えから稲刈りまで一貫とした農作業を見ることが出来る。高さ調節できる椅子があり、時にはソファークラスで寛げる場所を設け、快適に居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者同士が話ができるように椅子やソファを配置している。又、落ち着ける空間も設け、テーブルを置き快適に過ごせるようにしている。席替えを行う際は、利用者の思いを聞きながら検討している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や布団など、使い慣れたものを活用して、居心地よく過ごせるように入居前に本人・家族に説明をしている。本人・家族の写真や思い出の品も飾って頂いている。</p>	<p>ベッド・洗面台・床頭台などは備え付けられている。家族の写真や今まで使っていた家具、大事にしていた物品などを自由に持ち込んでいます。利用前の情報や本人に聞いたり、利用状況、生活スタイルに応じて、家具やベッドの位置などレイアウトを柔軟に変更している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室には名札を設け、自分の居室を迷うことがないようにし、トイレや風呂場はわかりやすく表示してある。日めくりカレンダーを大きく設置し、入居者の方が管理し役割として生活が送れる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目(A) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に添い、施設全体の年間目標、入居者と共に生活する上でのホーム独自で年間目標を掲げ、理念の実施につなげている。ホーム全体で身近な事例や研修会を定期的に行い、グループワークを行うことにより、管理者と職員で共有し実践していくように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事が開催される際は、職員が役員として関わり、事業所と地域のパイプ役となり、利用者が地域との繋がりを続けられるよう交流している。又、定期的に地域のボランティアの方の活動があり、地元の保育所、小学生、中学生との交流も多く行っている。又、事業所として、地域行事の企画運営側として参加する事が多くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も地域からの要請を受け、地区サロン等で認知症予防についての講義を行うなど、認知症の理解を促している。地元の小学生には、認知症サポーターとしてボランティア学習の受け入れを行っている。また、小学校や中学校に出向き、高齢者疑似体験を通して高齢者についての授業も行っている。地域ケア会議のメンバーにも加わり地域の課題に取り組んでいる。事業所には認知症ケア専門士や認知症アドバイザーを配置することで地域の相談窓口となるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能施設との合同で、2ヶ月に1回定期的に開催している。新型コロナウイルスの影響で今年度は2回の開催となっているが、活動報告などの書類を運営推進会議構成メンバーに送付し、意見や助言は後日、電話にていただくことでサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター職員の出席があり、意見や情報交換を行っている。また、疑問等は、電話での相談のやり取りの連携を行っている。市の介護予防事業の委託を受け定期巡回高齢者トレーニング教室実施。災害時の福祉避難所として、災害時には協力体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、施設内で年2回の研修を行うことで拘束のないケアの重要性を理解し取り組んでいる。また、スピーチロックなどアンケートを実施し、改善点について毎月振り返りを行い意識向上を図っている。帰宅願望のある入居者の方にも、制止の言葉は遣わない事を周知し、散歩等気分転換して頂くように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し意識を促し、勉強会をすることで職員間での連携を図っている。職員の個人面談・チェックシート等でストレスケアをすることで虐待を招かないよう努めている。虐待防止の外部研修などは積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設長・管理者に於いては、研修等に参加する機会を設け、自施設で職員への研修会を実施し周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約や解約、改定は入居者や家族より疑問や不安なことがないか確認しながら十分な説明を行い同意を得ている。入居後に改定となったものについても文書や電話にて同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の対話の中で不満や要望等をくみ取りながら、管理者会議や運営会議、ミーティング等で話し合いを行い、入居者の不満の解消や要望に応えられるよう支援している。また、普段から家族とのコミュニケーションを深め面会時の会話の中から、要望や意見を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットでのミーティングや個人面談での意見や提案等を出しやすい環境を作っている。また、職員が主体となり各委員会(感染・広報・美化・研修・防災)の委員長や委員メンバーとなり委員会を運営している。各ユニットの意見や提案は、毎月の運営会議(リーダー以上の会議)に持ち寄り、反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、自己評価も定期的に行っている。それに基づいて、面談することにより職員一人ひとりの思いを聞いたり、意識の向上を図るとともに、より良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、自主研修等を積極的に受ける機会を設けている。研修委員会を中心に年間計画を立て実施している。資格取得についても補助制度などを設け取得しやすい環境にしている。コロナ禍であるが、オンライン研修を積極的に取り入れ研修機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	三次地域密着型サービス事業所連絡会を立ち上げたことにより、市内のグループホーム9事業所との意見交換を行うことができ、サービスの質の向上に繋がるネットワークづくりを行っている。コロナ禍についてもオンラインにて定期的開催している。その他、管理者や職員は、外部研修を通して同業者や他専門職の方との意見交換や共有をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用などを設けることでスムーズに入居できるようにすすめている。家族やケアマネージャーからも情報を提供してもらい、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴の聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスが本人にとって有効であると考えられる場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者一人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、利用者の様子がわかるように手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、荷物が届いた場合には希望があれば本人から家族に電話をかけていただけるように支援することで、絆が途切れない関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。自宅が気になる方は定期的に自宅へ帰り、季節の物を収穫している。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話が弾むような席の配置を心がけている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等の家事を職員と一緒にしている。毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了する場合であっても入居者と家族がその後の生活で困ることの無いように、いつでも必要な介護サービス等の相談を受けれる体制をとっている。移り住む所の関係者にも必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用などを設けることでスムーズに入居できるようにすすめている。家族やケアマネージャーからも情報を提供してもらい、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴の聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるに準備をできるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランを基に、各担当職員が1ヵ月ごとにミーティングで報告し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、必要に応じてカンファレンスを行い、都度、課題やケアのあり方について話し合いをしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子やケアの実践は個別のケア記録に記入している。入居者との関わりの中で気づいたことをノートに記入し、職員間で情報共有して、統一したケアに努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活が施設内にとどまることがないように、本人の生活歴等をもとに、今までの交流が継続できるよう支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の3つのお寺から定期的に法話会を開催している。ボランティアについては、個人で登録していただく「ぬくもりヘルプスタッフ」を発足し、馴染みの関係になるボランティア活動に繋げている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎月主治医から「医学的情報と今後の方針」を、主治医には利用者の「今月のご様子」を提供しお互いに情報共有している。また、看護師との連絡ファイルを作成し、心配事や利用者の希望などが看護師を通じて医師にも相談できる体制を作っている</p>		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	心身状況の変化などで介護上不安に感じることがあれば訪問看護師に報告、相談しアドバイスを貰いながら処置や受診に繋がっている。また、連絡ノートやLINEを活用し、介護職員との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院など余儀なくされた場合も病状や療養経過を家族から報告を受けたり、医療連携室のソーシャルワーカーと連携して今後についても一緒に考え、相談できる関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	開設後、現在までホームでの看取りを数例している。重度化した場合は、本人、家族や医師と相談しながら、希望があれば看取りを行う方針にある。提携医院が近くにあり、医師と24時間連絡が取れ、緊急時にも的確に対応して頂けるよう体制が整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の救急蘇生法やAEDの使用方法を外部講師（消防署）からの研修を職員が受けている。施設で起こりうる、急変に必要な救急処置の研修を看護師により定期的の実施している。都度看護師等の指導を受けたり勉強会などで今後身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災想定訓練を行っている。地域の消防団と連携して火災想定訓練を計画している。近隣との信頼関係はあり協力が得られる状況にある。自治会主催の合同避難訓練に参加し災害時の連携体制を築いている。今年度も運営推進会議の方々にも訓練を見学してもらい意見交換の場を考えている。3月11日には停電や断水などの災害を想定し訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を実施し、人格や尊厳を尊重した言葉かけや対応について理解を深めている。制止の言葉は遣わないことを周知し、入居者の思いに添った支援に努めている。また常日頃から、プライバシーには配慮しながらケアを行っている。言葉遣いや対応に関して、職員同士でも日頃から、お互いに評価を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から、本人の希望や思いを表せるよう努めている。おやつ時間に自分の食べたいものや飲みたい物を選んで頂いたり、入浴時には自分で服を選んで頂くように声掛けし、自己決定ができるように働きかけている。又、自宅の墓参り等の外出支援も本人の思いを大切に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意思を必ず確認し、希望に添った支援を心掛けている。本人のやりたい事や思いはケアプランにも反映して、その人らしい日々の暮らしになるように支援している。日常業務についても入居者の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、頭髪などの身だしなみを整えていただく事で、おしゃれへの意識を持ち続けられるよう援助している。行事・外出等、その場に合った服装やおしゃれのできる声掛けや複数の服の中から選べるよう準備することやお化粧等の支援を行っている。また、行きつけの美容院に行くなどの支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かし、それぞれの役割を持ち、買い物・下ごしらえ・調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等分担し、食事作りに参加している。献立作りも日々の会話の中から要望を聞き献立に反映している。季節の食べ物を提供できるよう心がけている。秋には新米を頂き、かま炊きを行った。コロナ禍で買い物に出かける機会が少なくなったが、生協を利用し、利用者へ広告を見ながら食べたい物を選んで頂いたり工夫している。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	毎日の食事を記録に残し、その入居者 の方に合った食事形態で提供している。 又、水分量の少ない利用者の方には、 個々の好みの飲み物を提供したりゼリー にして提供することでしっかりと摂取し て頂いている。夜間も、個々にお茶など を準備して居室に置き、水分補給を促し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず声掛けをしている。義歯等磨 くことが難しい入居者には介助を行い清潔 を保持している。義歯と口腔ケアセットの 洗浄・消毒は毎日行っている。歯や義歯の 不具合がある場合には、歯科受診や往診を して治療や相談を行ない、清潔な口腔状態 を維持できるようにしている。又、歯科衛 生士の資格を有する職員がおり、相談をし ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンをケア記録や排泄記 録表に記載し、入居後も自立支援に向 けた支援を行っている。定期的な誘導や排 泄の意思を察知し、誘導できるように支 援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、1人1人の排便チェックを行い、便 秘の入居者の方には、ヨーグルトや食物 繊維の補助食品などを提供し、適度な運 動を取り入れながら、できるだけ下剤に 頼らないように取り組んでいる。又水分 が入りにくい方に対して、紅茶ゼリー等 を作り水分摂取を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	好みに合わせた入浴剤や温度設定をし、ゆったり のんびりとした入浴時間を提供している。入浴拒 否に対しては日を改めて入浴の声掛けを行って いる。入浴時間の希望があれば出来る限り応じら れるよう取り組んでいる。同性介助者を希望され る方に対応している。毎月26日を風呂の日として 入浴後にはジュースやアイスクリームを提供など いつもとは違う雰囲気味わって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	いつでも自由に落ち着く場所で休息を取って頂いている。夜間の睡眠状態を日中に申し送り、個々に合わせた休息を取って頂いている。安眠できるよう照明や寝具などの要望にも対応している。巡視時には室温の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の処方に基づいて、居宅療養管理指導の薬剤師が調整した薬を、介護職員が説明を受け服薬支援をしている。体調等に変化があった際には、看護師やかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や本人の要望、興味のある事などを把握した上で役割を持った生活を過ごして頂けるよう支援している。食事の準備や盛り付け、配膳など積極的にされ、買い物等の外出支援やドライブ、散歩など気分転換にも努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出機会も減っているが、感染者数を確認しながら季節間を感じて頂けるようドライブや外食に出掛けたり、ドライブスルーを利用し普段食べれないものを食べて頂いたりした。希望で歯科等の病院受診も家族と協力しながら外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理されておられる方と事業所で預かっている方がおられる。買い物希望がある時は、好きな物を自分で買える楽しみを味わえる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族や知人の方と、話したい場合など電話や手紙で連絡をいつでも取って頂けるよう支援している。年賀状のやり取りも毎年行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾り季節感を感じて頂いている。温度や湿度にも配慮し、冬場には定期的な換気を行い、感染予防にも努めている。ウイルス・殺菌除去に効果がある薬品を置くなどして、感染予防や不快な臭いのない空間づくりを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者同士が話ができるように椅子やソファを配置している。又、落ち着ける空間も設け、テーブルを置き快適に過ごせるようにしている。席替えを行う際は、利用者の思いを聞きながら検討している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や布団など、使い慣れたものを活用して、居心地よく過ごせるように入居前に本人・家族に説明をしている。本人・家族の写真や思い出の品も飾って頂いている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室には名札を設け、自分の居室を迷うことがないようにし、トイレや風呂場はわかりやすく表示してある。日めくりカレンダーを大きく設置し、入居者の方が管理し役割として生活が送れる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目(B) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかわち「ぬくもりの家」

作成日 令和5年2月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事作りが職員主体でご利用者の方に手伝っていただいている。	ご利用者主体での食事作りとし、職員はサポートにまわる。	冷蔵庫を開けるところからご利用者で行い、献立、調理、盛り付けまでご利用者主体で行う。	R5.3～
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。